

巻 頭 言



新潟市長 中原 八一

『世界とつながる』拠点都市・新潟』を目指して

古くからみなとまちとして発展してきた新潟市は、ロシア極東や中国東北地方、朝鮮半島などの日本海対岸地域と歴史的に密接な関わりを持ってきました。現在、ロシア、中国、韓国をはじめ、海外に7つの姉妹・友好都市、交流協定都市があります。また、本市には、これら3か国の総領事館が設置され、各国と航空便で結ばれるなど、新潟は北東アジアと日本を結ぶ交流拠点となっています。本市はこうしたつながりを通じて、食と花、環境・エネルギー、文化・芸術、スポーツなどさまざまな分野で対外交流を進め、今では北東アジアを中心にアジア全域、欧米へと交流の輪を広げています。

2017年には、このような海外との交流実績が評価され、自治体国際交流表彰（総務大臣賞）を受賞しました。また、日本海側有数のコンベンションセンターを有する本市では、これまでにG8労働大臣会合（2008年）、APEC食糧安全保障担当大臣会合（2010年）、G7農業大臣会合（2016年）、G20農業大臣会合（2019年）といったハイレベルな国際会議の開催都市に選ばれ、日本海側の拠点都市としての実績を積み重ねてきました。

このたびの新型コロナウイルスの感染拡大は、全世界に影響を及ぼし、人々は海外との往来が制限される状況を余儀なくされています。本市と北東アジアを結ぶ航空便も感染拡大とともに運航を停止し、姉妹・友好都市などとの記念交流行事もその多くが中止となるなど、海外の都市との交流が大変難しい状況にあります。そうした中で本市は、オンライン形式による交流を始めるなど新たなかたちの交流を進めています。

本市は、今後もデジタル技術を最大限に活用した交流によって、互いの絆を一層深めていくとともに、感染症の収束を見据え、新潟と北東アジア各地を結ぶ航空会社との運航再開に向けた情報共有、観光客受入のためのインフラの整備、SNSなどを活用した観光情報の発信など、対外交流の一層の充実やコロナ後の交流人口拡大に取り組みながら、『世界とつながる』拠点都市・新潟』を目指していきます。